



絆（きずな）

本来の意味は、「犬・馬・鷹などの家畜を、通りがかりの立木につないでおくための綱」のことで、しがらみ、呪縛、束縛の意味に使われていました。人と人の結びつき、支え合いや助け合いを指すようになったのは、比較的最近のことです。特に、東日本大震災発生時からその後の復興に際して、「お互いを思いやる優しく強いつながりや確かな信頼関係」という意味合いで、よく使われるようになりました。

言葉は時代と共に変化するものであり、現在の「絆」が持つ良い意味合いについて否定するつもりはありません。しかし、学校において「いじめ防止」や「いじめ事案対応」にあたる際に、この言葉が持つ本来の意味合いには、児童に伝えなければならない重要な事柄が含まれていると感じています。

学校では、日々の教育活動の中で、いじめ防止のために児童がお互いに尊重し合い思いやりを持って接することができる力を育てるための指導や活動を行ったり、いじめやトラブルの早期発見早期対応のための観察や情報収集に努めながら、子供たちの人間関係に由来する悩みや被害加害への対応を続けています。「いじめ」を始めとする児童間の問題は、学校という集団生活の場ではいつでも誰にでも起こりうることで、今は子供たち自身による解決は難しく、さらに、保護者の理解を得ながらの対応や、子供たちの問題とは別次元での保護者の感情への配慮等、学校は日々、それらの対応に追われています。これは誰のせい、誰が悪いのか、ということではなく、現代社会が抱えている問題の縮図であり、義務教育として大勢の人数を一カ所に集めて一人の担任による一斉指導を基本とする現在の学校制度においては、避けては通れないことです。今後、国としての教育制度がどのように変化するかは予想できませんが、現在の制度の中では、どんなに大きな負担であっても、他の多くの大切な教育活動に費やすべき労力や時間を削ることがあっても、その対応は公務員としての教職員の義務であり、仙台市教育委員会からも、最優先課題として取組を命じられています。

仙台市では、児童生徒の「いじめをしない、させない、許さない」といった意識の高揚と、学校、保護者及び地域が一体となって、いじめの未然防止を図ることを目的として、毎年5月と11月に『いじめ防止「きずな」キャンペーン』を展開しています。各校ではいじめをなくすために、命の大切さやいじめについて考える授業、いじめ実態把握調査、いじめ防止に関する啓発等様々な取組を行っています。このキャンペーンにも「きずな」という言葉が用いられており、さらに、「き」「ず」「な」それぞれを頭文字として、「きみたちは・ずっと・なかま」というスローガンも掲げられています。

冒頭にも述べましたが、私は「きずな」が現在、望ましい意味で用いられていることに異議を唱えるつもりはありません。しかし、その本来の意味合いと、さらに、そのことを踏まえた上で上記のスローガンを見たとき、私は、郡山小学校の子供たちには、以下のような補足説明をしたいと思います。

偶然郡山小学校で出会った皆さんが、今、「仲間」として仲良くすることや、仲良くしようと努力することは大切なことです。今は学校生活を共にする「仲間」ですし、中には、心から仲良くなつて、これからもずっと「仲間」として人生を歩んでいく友達もいることでしょう。

でも、学級や学年や学校の全員が、これからも「ずっと・なかま」であることを強制するものではありません。郡山小学校で共に過ごす時間はわずかなものです。皆、将来それぞれの道を行くのです。

これから先、長い人生の中で何度も環境は変わり、新しい出会いが訪れます。その長い道のりの中で皆さんは、本当の仲間を自分自身で探していくのです。

今後、皆それぞれの道に分かれていくからこそ、今、このひととき偶然集まった、その出会いを大切に、お互いを「他人」として尊重し合い、お互いに思いやりを持って接することが大切なのです。

これからも郡山小学校では、子供たちの人間関係を注視し、保護者や地域の皆様の力をお借りしながら、思いやりのある温かい学校づくりを目指して日々努力して参ります。

..... 切り取り線
子供たちのための、意見・提案・要望・感想・校長に知らせたいこと など
2022年5月13日（ ）年（ ）組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp (校長直通)